

平成27年度病虫害発生予察予報第12号（3月）

平成28年3月4日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

作物名	病虫害名	予想発生面積（地域名）
抑制、促成キュウリ	べと病 うどんこ病 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ	<u>やや多(中西、西)</u> 、やや少(中央) <u>多(中央)</u> 、 <u>やや多(西)</u> 、やや少(中西) 平年並(中央)、やや少(西)、少(中西) <u>やや多(県下全域)</u>
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 すすかび病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ	<u>やや多(東、西)</u> 、少(中央) <u>多(東、西)</u> 、 <u>やや多(中央)</u> <u>やや多(県下全域)</u> <u>やや多(東、中央)</u> 、やや少(西) 平年並(中央)、やや少(東、西)
促成ピーマン、シシトウ	うどんこ病 斑点病 黒枯病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ ヒラズハナアザミウマ	<u>やや多(県下全域)</u> <u>多(東、中央)</u> 、 <u>やや多(中西)</u> <u>多(中西)</u> 、平年並(中央)、少(東) <u>多(中西)</u> 、 <u>やや多(東、中央)</u> <u>やや多(東)</u> 、平年並(中央)、少(中西) <u>やや多(中西)</u> 、平年並(中央)、少(東)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 うどんこ病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> <u>多(中央)</u> 少(中央) 少(中央)

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方気象台 2月25日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞2月27日から3月26日

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は高い確率60％です。降水量は平年並または多い確率ともに40％です。日照時間は平年並または少ない確率ともに40％です。

週別の気温は、1週目、2週目は高い確率60％です。3～4週目は平年並または高い確率ともに40％です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)		平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	10	30	60	
		降水量	20	40	40	
		日照時間	40		40	20

＜気温経過の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	低い		平年並	高い
1週目	四国地方	10	30	60	
2週目		10	30	60	
3～4週目		20	40	40	

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：2月27日（土）～3月26日（日）

1週目：2月27日（土）～3月4日（金）

2週目：3月5日（土）～3月11日（金）

3～4週目：3月12日（土）～3月25日（金）

II 病虫害発生予想

1 抑制、促成キュウリの病虫害

1) ベと病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（やや少/やや低）、中西部（やや多/やや高）、西部（やや多/やや低）

根 拠

(1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は中央部は少なめ、中西部、西部は平年並であった。発生程度は中央部、西部は低め、中西部は平年並であった。

(2)向こう1か月の気象予報では降水量が平年並～多いと予想されているため、既発ほ場を中心に発病が増加すると考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（多/平年並）、中西部（やや少/高）、西部（やや多/やや高）

根 抛

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県中央部はやや多、中西部は少、西部は平年並であった。発病程度は中央部はやや低、中西部はやや高、西部は平年並であった。
- (2) 向こう1ヶ月の気温は高めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。ガッテン乳剤、プロパティフロアブルを使用した場合、菌叢の褐変、消失は見られないので防除効果は上位葉への進展など、未発生葉への進展状況で判断する。また、パルミノはカブリダニ類に対する影響が強いので注意する。

3) 黄化えそ病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（平年並/やや低）、中西部（少/低）、西部（やや少/やや高）

根 抛

- (1) 巡回調査では西部で発生ほ場が増加したが、中央部、中西部では発生ほ場の増加は見られなかった。発生面積は中央部は平年並、中西部、西部は少なめであった。発生程度は中央部はやや低め、中西部は低め、西部は平年並であった。
- (2) 向こう1ヶ月の気温は高めと予想されているため、本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が盛んになる。既発ほ場では発病株数が急激に増加する可能性があるので注意する。

対 策

- (1) 媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する（低温期は生長点付近に多く見られる）。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

4) ミナミキイロアザミウマ

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（やや多/高）、中西部（やや多/やや低）、西部（やや多/やや高）

根 抛

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は県下全域で平年並であった。発生程度は中央部で高め、中西部は低め、西部は平年並であった。
- (2) 向こう1ヶ月の気温は高めと予想されている。既発ほ場では密度が急激に上昇する可能性があるので注意する。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する（低温期は生長点付近に寄生している）。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵など、化学農薬以外の防除方法も取り入れる。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや多/高）、中央部（少/低）、西部（やや多/高）

根 拠

- (1)巡回調査では東部、西部で発生が見られた。発生面積は東部、西部とも平年並であった。発生程度は東部、西部とも高めであった。
- (2)向こう1ヶ月の気温は高めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

発生量（発生面積/発生程度）

東部（多/高）、中央部（やや多/やや低）、西部（多/高）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部、西部は多、中央部は平年並であった。発生程度は東部、西部で高め、中央部は低めであった。
- (2)向こう1ヶ月の気温は高め、降水量も平年並～多めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) すすかび病

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや多/やや高）、中央部（やや多/やや低）、西部（やや多/高）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積はいずれの地域も平年並であった。発生程度は東部は平年並、中央部は低め、西部はやや高めであった。
- (2)向こう1か月の気温は高め、降水量も平年並～多めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) タバココナジラミ

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや多/やや高）、中央部（やや多/やや高）、西部（やや少/やや低）

根 拠

- (1)巡回調査では東部、中央部で発生が見られた。発生面積、発生程度ともいずれの地域も平年並であった。
- (2)向こう1か月の気温は高めと予想されている。既発ほ場では急激に密度が上昇する可能性があるため注意する。

対 策

- (1)本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合は上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。

5) ミナミキイロアザミウマ

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや少/やや低）、中央部（平年並/やや低）、西部（やや少/やや低）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られたが、いずれの地域でも発生面積は平年より少なめ、発生程度も低かった。
- (2) 向こう1か月の気温は高めと予想されている。既発ほ場では密度が急激に上昇する可能性があるので注意する。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや多/やや高）、中央部（やや多/高）、中西部（やや多/やや高）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積はいずれの地域も平年並であった。発生程度は東部、中西部は平年並であったが、中央部は高めであった。
- (2) 向こう1か月の気温は高めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 斑点病

発生量（発生面積/発生程度）

東部（多/高）、中央部（多/高）、中西部（やや多/やや高）

根 拠

- (1) 巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部はやや多め、中央部は多め、中西部は平年並であった。発生程度は東部、中央部は高め、中西部は平年並であった。
- (2) 向こう1か月の気温は高め、降水量は平年並～多めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) 黒枯病

発生量（発生面積/発生程度）

東部（少/低）、中央部（平年並/やや低）、中西部（多/高）

根 拠

- (1) 巡回調査では中央部、中西部で発生が見られた。発生面積は中央部はやや少なめ、中西部は多めであった。発生程度は中央部は低め、中西部は高めであった。
- (2) 向こう1か月の気温は高め、降水量は平年並～多めと予想されているため、発病

が増加すると考えられる。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

4) タバココナジラミ

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや多/やや高）、中央部（やや多/高）、中西部（多/高）

根 拠

- (1)巡回調査では県下全域で発生が見られた。発生面積は東部、中央部はやや多め、中西部は多めであった。発生程度は東部、中央部は平年並、中西部は高めであった。
- (2)向こう1か月の気温は高めと予想されている。既発ほ場では、密度が急激に上昇する可能性があるので注意する。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合は、上位葉を中心に防除を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

発生量（発生面積/発生程度）

東部（やや多/高）、中央部（平年並/やや低）、中西部（少/低）

根 拠

- (1)巡回調査では東部、中央部で発生が見られた。発生面積は東部は平年並、中央部はやや少なめであった。発生程度は東部はやや高め、中央部は低めであった。
- (2)向こう1か月の気温は高めと予想されている。既発ほ場では密度が急激に上昇する可能性があるため注意する。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) ヒラズハナアザミウマ

発生量（発生面積/発生程度）

東部（少/低）、中央部（平年並/高）、中西部（やや多/高）

根 拠

- (1)巡回調査では中央部、中西部で発生が見られた。発生面積は中央部はやや少なめ、中西部は平年並であった。発生程度は中央部はやや高め、中西部は高めであった。
- (2)向こう1か月の気温は高めと予想されている。既発ほ場では密度が急激に上昇する可能性があるため注意する。

対 策

- (1)多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（多/高）

根 拠

- (1) 巡回調査では平年に比べ多めの発生であった。下葉中心の発生であったが、発病程度も平年に比べ高めであった。
- (2) 向こう 1 か月の気象予報では降水量が平年並～多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) すすかび病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（多/高）

根 拠

- (1) 巡回調査では平年に比べ多めの発生であった。下葉中心の発生であったが、発病程度も平年に比べ高めであった。
- (2) 向こう 1 か月の気象予報では降水量が平年並～多めと予想されているため、発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので発生初期の防除を徹底するとともに、換気により、ハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

3) うどんこ病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（多/高）

根 拠

- (1) 巡回調査では平年に比べ多めの発生であった。
- (2) 向こう 1 ヶ月の気温は高めと予想されているため、発病が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 他の糸状菌病害とは異なり、比較的乾燥条件でも発病できる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。
- (2) トマトに発生するうどんこ病は内部寄生性のもの（葉裏に発生する）と外部寄生性のもの（葉表に発生する）2 種類がある。外部寄生性のものは病勢の進展も早く、被害も激しいので早期防除を徹底する。

4) 黄化葉巻病

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（少/低）

根 拠

- (1) 巡回調査では発生が見られなかった。
- (2) 本病の媒介虫であるタバコナジラミは巡回調査では見られていないため少発生が続くと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

5) タバココナジラミ

発生量（発生面積/発生程度）

中央部（少/低）

根 拠

- (1) 巡回調査では発生が見られなかった。

対 策

- (1) 本虫は生長点付近に成虫が産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病虫害防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病虫害防除所ホームページ（こうち農業ネット）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/?sid=2016>

- ① 病虫害発生予察月報、病虫害発生予察予報
- ② 病虫害発生予察注意報、病虫害発生予察警報、病虫害発生予察特殊報
- ③ 病虫害発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病虫害 etc.

こうち農業ネットサービス※

- ・ 携帯電話を使った病虫害関連情報（どなたでも利用可能です）

<http://www.nogyo.tosa.pref.kochi.lg.jp/i/info>（Iモード）

トップメニュー→地域情報→タウンガイド・行政→高知県庁メニュー→農業情報（ezweb）

四国メニュー→タウン情報・行政→高知県庁メニュー→農業情報：（ヤフー）

- ① 病虫害発生予察情報（概要）

※ 閲覧は無料ですが通信料は別途必要となります